

事例⑤ 5歳児クラス・7～9月

ねらい「社会との関わりを通して地域とつながる」

『気になる』小学校—一人ひとりのペースで関心が持てるように—

子どもの姿

コロナ禍の中で育ってきた子どもたち。入園当初は経験が少なく、初めてのことに強い緊張を感じたり、気持ちを上手く出せずに困っていたりする姿が見られました。4歳児クラスでは保育者や友だちと過ごす中で、「人っていいな」と思える安心感を強めました。5歳児クラスに進級する際、その先の小学校を見据え、不安な思いを言葉にする子どももいました。そこで、小学校がどのようなところなのか、それぞれが知っている情報や描いているイメージを出し合い共有しました。そして、実際に小学校へ疑問を投げかけてみることにしました。

子どものあそびや経験

■「しょうがっこうのこと、おしえてください」



**行動・発言**

- ・「小学校って勉強が難しいのかな」「給食、美味しいかな?」「学校に虫かご持ってっていいの?」…本当のところはどうなのだろう…小学生、そして小学校の先生へ聞いてみたいことを出し合いました。
- ・聞いてみたいことを分担し、知っている文字を教え合ったり、保育者に尋ねてみたりしながらまだ見たことのない・会ったことのない小学生に向けて手紙にしました。また、得意な折り紙や絵のプレゼントを作る子どももいました。

■「おてがみどうぞ」



思いも質問も緊張も小学生が受け止めてくれました。

■校長先生、教頭先生にしつもん

休み時間には大きな校庭でたくさんかなへびを見つけたいね。



行動・発言

【気になる人で、初めての小学校へ(7月)】

- ・実際に手紙を届けに小学校へ行ってみたいという子を募り、郵便係として近隣の小学校へ行ってみることにしました。
- ・なんと校長先生、教頭先生が待っていてくださり、「なにか聞いてみたいことはある?」とお話の時間を作ってくださいました。お二人の優しい雰囲気の中で安心したのか子どもたちは次々と「勉強はなにをするの?」「かなへびはいるの?」とそれぞれの言葉でたくさんの質問。先生方にしっかり答えてもらって大満足。
- ・園に帰り、クラスみんなに今日の学校でのことを共有しました。すると、「いいなあ」「こんど行ってみたい!」と関心を持つ子も。

行動・発言

【2回目の小学校へ(9月)】

- ・「こんど行ってみたい!」「みんなで小学校までお散歩してみたいね」とさらに増えてきた小学校に関心をもつ子どもたち。そのつばやきを実現するために、子どもたちと予定を立て、小学校まで歩いてみました。
- ・なんと、小学校へ着くと手紙の返事が待っており、ほんものの小学生からの言葉に目を輝かせる子どもたちの姿がありました。

■小学生みたいに歩いていこう!



ポイント

■クラスでの情報共有の時間



◎配慮事項(環境構成、保育者の関わりなど)

◎「ミーティング」を活用して

- ・今回は保育者が「小学校ってどんなところなのだろう?」ときっかけを作り、それぞれが小学校について知っていること、楽しみなこと、心配なこと等を出し合い、考える時間を作るようにしました。園でのことを家に持ち帰って話し、そしてそれぞれが翌日新たな情報を持ち込み・・・と、数日に渡りこのミーティングは続けました。
- ・「OOちゃんはどう思う?」と一人ひとりの思いを言葉にしてもらうことによって小学校に対し、さらに想像が膨らむ姿が見られました。
- ・普段から行っているミーティングの場面を活用することで、どのようなことでも発言しやすい雰囲気の中で話し合いができました。

■小学生の運動会の練習を見る様子



行動・発言

【3回目の小学校へ(9月)】

- ・手紙のやりとりから、今度は小学生の運動会の練習風景を見せようことになりました。この日は園バスに乗り、ついに5歳児全員で小学校へ向かいました。子どもたちは小学生の姿に見入っています。
- ・今回初めて小学校へ足を踏み入れた子も、「小学校大丈夫だったよ」「凄い、体操揃ってるね」「この曲知ってる!」「先生怖くないね」と教えてくれました。一人ひとりの向かい合うタイミングを大切にすることで、一人ひとりが安心して小学校での生活の姿を受け止めていたようです。

あそびや経験が小学校につながるように

この活動を通して、園生活の延長として無理なく一人ひとりのペースに合わせ、必要感をもって小学校と関わりを持つことを大切にしました。就学を迎えるこの時期、安心できる園の仲間との話し合いの共有や、自ら「知りたい」と思えるタイミングを設けることで、社会とつながる経験を積むことが出来たと思います。園生活と小学校との共通点などに自ら気付くことによって、小学校生活に安心感と期待を持って就学が迎えられそうです。(保育者)

小学校では、1学期の学級や友達に慣れてきたころに学校の中を生活科の学習で探検をします。学校全体、学校のまわりへと調べることを広げていきます。挨拶や質問するための話し方など、必要なことを探検前に確認します。探検後は、ポイントにあるような共有の時間を持ちます。探検での気付きや自分なりの思いを表現する力が発揮できるように配慮して、達成感が味わえる学習活動を目指しています。

(小学校教員)

就学前施設では、保育者が子どもたち一人ひとりのペースを大切にしながら、その子の持つ力をじっくりと丁寧に育てています。保育者や周囲の子どもたちに支えられたりする中で、「安心と挑戦の循環」や自立心が芽生え、そこで得た達成感は何よりの子どもたちを支える「お守り」となっているはずです。

小学校においても、こうしたプロセスを特に1学年次には大切に、周囲に支えられながら一人ひとりの生活が確立できるよう教師が働きかけています。

(コーディネーター)